

アイホールダンスコレクション vol. 50

アルディッティ弦楽四重奏団 + ケージ + 白井剛

# アパートメントハウス 1776

日時：2007年5月18日（金）19：30（19：00開場）

会場：伊丹アイフォニックホール

企画招聘：テレビマンユニオン 企画製作：アイホール

助成：財団法人地域創造 主催：伊丹市・財団法人伊丹市文化振興財団

Photo: IKEDA HISAKI Design: KONNO AYA

白井剛、ケージを踊る。



宝くじは  
豊かさ築く  
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に  
役立てられています。

# アパートメントハウス 1776

世界最高峰の現代音楽クアルテット、「アルディッティ弦楽四重奏団」と  
繊細かつ柔軟な発想力でコンテンポラリーダンスシーンに鮮やかに切り込む「白井剛」。  
昨夏、この出会いが、ジョン・ケージの幻の名作『アパートメントハウス1776』に新たな光を注ぎ、  
好評を博しました。2006年の話題作、待望の関西公演です。

## ■プログラム

A. ウェーベルン

弦楽四重奏のための6つのバガテル 作品9 (1911-13)

A. Webern 6 Bagatellen für Streichquartett op. 9

細川俊夫

「沈黙の花」(1998)

T. Hosokawa Silent Flowers

西村朝

弦楽四重奏曲第2番《光の波》(1992)

A. Nishimura String Quartet No. 2 "Pulse of Light"

ジョン・ケージ/アーヴィン・アルディッティ編曲

44のハーモニー (ダンスヴァージョン)

～アパートメントハウス1776より

J.Cage/I. Arditti

44 Harmonies/

Apartment house 1776-dance version (2006) (1976/99)

8月27日に金沢21世紀美術館シアター21で行なわれたこの曲の初演は、ことのほか興味深いものだった。アルディッティ・カルテットの名演もさることながら、白井剛の演出とダンスが加わることで、それはたんなる音楽を超えた多角的なパフォーマンスとなったのである。この曲の上演としては例外的な成功と言っているのではない。 (中略) アルディッティ・カルテットの音楽的精度を前提として、決して過剰ではない、むしろ白井剛らしい深遠なシンプリシティをもったミュージサーカスを作り出したという点で、今回の舞台は意外な成功を収めたと言えるだろう。アルディッティがケージの混沌としたアパートメントハウスの一室をきれいに掃除し、そこに籠もって完璧な演奏をおこなっているところへ、ふらっと入ってきたストレンジャーとしての白井剛が、それをケージとは別の意味で再びサーカス化した——マキシマル・ミュージサーカスではない、ミニマル・ミュージサーカスにしたところだろうか。他に映像も控えめに使用されるが、全体にごくわずかな手段だけを使って音楽の隙間に入り込み、それを多角的なパフォーマンスに変えてしまう、これは実に見事な軽業だった。

浅田彰 (批評家)

[REALTOKYO]にて全文掲載中

<http://www.realtokyo.co.jp/ja/cities/0028-asada.htm>

(アルディッティ弦楽四重奏団の) 多彩なノイズを自由奔放に操りながら一つの「作品」へまとめていく腕前は、無造作にキャンパスにぶちまけられた絵の具が瞬間に見事な抽象画へと仕上げられていく様子を連想させる。(中略) 白井は、安易な「異種コラボレーションの感動物語」を断念し、むしろ「意思疎通の不能の抒情」を繊細に描こうとしていたと飛う。それはダンスというよりもパントマイムで、風船に紙飛行機をつけて飛ばしたり、団員の肩に手を置いたりして、白井は一生懸命気を引こうとするのだが、奏者たちは楽譜に首を突っ込んで淡々と弾き続ける。一度引っ込んだ彼らが再登場したときには、全員が風船を背中につけていたのには笑ってしまったが、そこに打ち解けたコミュニケーション空間が成立するわけではない。見ている方も次第に、いちいち「意味」を求めることが面倒になってくる。ナンセンスに身を任せる幸福な眠気。そして絶望的な白井の身ぶりと死を暗示する海の映像。

岡田暁生 (音楽評論家)

朝日新聞 2006年9月17日夕刊



写真提供: 津田ホール



Photo: IKEDA Hiraku



Photo: IKEDA Hiraku



Photo: IKEDA Hiraku

振付・映像・出演

白井剛

Tsuyoshi SHIRAI

振付家/ダンサー

76年、長野県飯田市に生まれ、

96年-00年、ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。98年、「Study of Live works 発表ト(ばねと)」の設立に参加。『Living Room 一砂の部屋』にて、「パニコレ国際振付賞 (Prix d'Auteur du Conseil general de la Seine-Saint-Denis 2000)」受賞。04年、ソロ作品『質量、slide、&』(シアターラム・東京)を発表。04-05年、香港のYurInG (ユリー・ン) 振付『悪魔の物語』(ストラヴィンスキー『兵士の物語』より)、05年、伊藤キム振付『景色』(原作: 三島由紀夫)へダンサーとして出演。06年、現代音楽カルテット「アルディッティ弦楽四重奏団」とのコラボレーション公演を国内5都市(金沢市・益田市・東京・宮崎市・飯田市)にて行う。同年、トヨタコレオグラフィアワードにて「次代を担う振付家賞」受賞。07年、自身の振付作品を発表する新カンパニーAbsTを立ち上げ、同年2月、新作「しはに-subsoil」を発表。



Photo: Philippe Gontier

出演

アルディッティ弦楽四重奏団  
ARDITTI STRING QUARTET

74年に第一ヴァイオリンのアーヴィン・アルディッティがクアルテットを創設、活動を開始。現代作品そして20世紀初期の作品の深い解釈と卓抜した演奏は、世界各地に広く知られ、高い評価を確立している。この30余年の間に、数百もの弦楽四重奏曲がアルディッティ弦楽四重奏団のために作曲され、数多くが今世紀の代表的なレパートリーとなっている。バードウイスル、ケージ、カーター、ティロン、ファーニホウ、グバイドゥーリナ、ハーヴェイ、細川、カーゲル、クルターグ、ラッペンマン、リグティ、ナンカロー、レイノルズ、リーム、シェルシ、シュトックハウゼン、クセナキスなどの作品の世界初演を行っていることで、彼らのレパートリーの広さがよく分かる。そして、彼らは、作曲家とともに作品の解釈を深める作業を欠かさない。CDは130枚以上。フランスのレーベル、ナイヴ・モニター・ニューからはシリーズでアルディッティ弦楽四重奏団のCDは、すでに42枚がリリースされている。数々の現代作品をはじめ、また新ウィーン楽派の作曲家による作品の初デジタル録音となったこのシリーズは1992年国際批評家賞を受賞。話題沸騰したシュトックハウゼンの「ヘリコプター・クアルテット」のこのシリーズからのリリースである。また、ベリオが亡くなる直前に、氏の弦楽四重奏曲を全曲録音。ロイヤル・フィルハーモニック協会の室内楽アンサンブル賞、グラモフォン誌の現代音楽部門での受賞など活動に対して様々な賞が贈られている。そして、99年には、弦楽四重奏の歴史を未来へつなぐ活動に対し栄誉ある「エルンスト・フォン・シーメンス音楽賞」が授けられた。

□日時: 2007年5月18日(金) 19:30開演 (19:00開場)

□料金 (全席指定):

一般=前売 3,000円/当日 3,500円

学生&ユース (25歳以下)=前売 2,000円/当日 2,500円

\*学生&ユース券のお客様は、当日受付にて学生証が年齢の分かる書類をご提示ください。

\*未就学児童をお連れのお客様は、観客室にてご覧下さい。(要事前予約・先着順)

\*客席への未就学児童の入场はご遠慮ください。

□チケット発売日: 2月24日(土) 10:00

□チケット取扱:

電子チケットぴあ=

電話: 0570-02-9999/0570-02-9988 (Pコード: 375-420)

アイホール=窓口での直接購入のみ

\*残席がある場合、公演2日前より電話予約(当日精算)をお受けいたします。

\*前売券売切の際、当日の発売はいたしません。



\* 阪急伊丹駅から徒歩4分、

JR伊丹駅から徒歩7分

\* お車でお越しの方は市営

宮ノ前駐車場(有料)をご利用ください。

□会場: 伊丹アイフォニックホール (伊丹市立音楽ホール)

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前1丁目3-30 電話: 072-780-2110

□お問合せ: アイホール (伊丹市立演劇ホール) 火曜日休館

〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 電話: 072-782-2000

e-mail: aihall@juno.ocn.ne.jp

<http://www6.ocn.ne.jp/~aihall/>